

令和3年度 学校自己評価（年度末）

基本方針 安全・安心で生徒職員ともに元気な学校、SDGsの理念を踏まえて、生徒の長所を引き出し、地域社会に貢献する学校づくりを目指す

重点目標	具体的目標
1 基本的な生活習慣を確立させるとともに、規範意識の醸成を図る。	(1) 生活指導 ①基本的な生活習慣の確立 ②ルールへの遵守、マナーの向上 ③身だしなみ指導の徹底 ④元気なあいさつ・返事 ⑤保護者との早めの連携
2 基礎基本の学力定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善に取り組む。	(2) 学習指導 ①授業規律の徹底 ②授業力の向上、授業改善（主体的・対話的で深い学び） ③家庭学習の定着 ④ノートやデジタル教材の活用
3 キャリア教育の一層の充実を図るとともに、大学入試改革への対応を図る。	(3) 進路指導 ①3年間を見通したキャリア教育の推進 ②就職指導の充実 ③進学指導の充実と大学入試改革の研究と対応
4 部活動や特別活動などへの積極的な参加を促すとともに、外部人材の活用や地域貢献を図り、円滑な人間関係や素直な心と感謝の気持ちを育む。	(4) 部活動及び特別活動 ①部活動の充実 ②学校行事の充実 ③生徒会活動、委員会活動の充実 (5) 勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害の防止 ①業務の適正化 ②確実・適切なメンタルヘルスの保持 ③年次休暇の計画的な取得を促進する環境整備 ④不祥事の防止
5 教職員間のコミュニケーションや連携を図りながら多忙化を解消する。	(6) その他 ①環境美化 ②ボランティア活動の推進 ③積極的な情報発信（ホームページ、Instagramのタイムリーな更新） ④同窓会との連携

担当	重点目標	具体的方策	評価	反省及び次年度の課題
総務	①PTA活動をより充実させる。	PTA活動の様子を保護者に向けて積極的に発信する。	B	・PTA活動は思うように実施できていないが、学校全体に興味を持ってもらえるよう、HPやInstagram、メール配信サービスを利用し、情報発信ができた。
	②内海高校の魅力を発信する。	きめ細やかな情報発信をしていく。	B	・ホームページでは、タイムリーな更新を継続できている。新たにQandAのページを作成し、中学生向けの情報を提供している。また、さらに細かい情報発信手段として、HPとInstagramの連携を図っている。 ・訪問型学校説明会については感染症のこともあり、例年通りの活動にとどまってしまった。学校紹介DVDを作成することが次年度の課題。

担当	重点目標	具体的方策	評価	反省及び次年度の課題
教務	①落ち着いた学習環境を作り、基礎基本の定着を図る。	授業規律の確保に努め、生徒が落ち着いて授業に向かう環境を作る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初から授業を受けるルールを生徒に周知し、授業規律に反する行為のある生徒については段階的に指導を行っている。落ち着いた授業環境を実現しつつあるが、引き続き指導が必要な生徒も存在する。</li> <li>・6月に教員同士の授業参観、7月と12月に生徒へ授業へのアンケート調査を行い、授業改善を図っている。</li> </ul>
	②新しい教育課程の実施に向けた環境整備と業務の改善を図る。	生徒指導要録や通知票等書類の改訂と、観点別評価の具体的実施方法を策定する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科主任者会で観点別評価の原案をまとめ、全職員に共有した。評価方法は定まったが、新しい校務支援システムではシステムの設定上、本校の評価方法を実施することができない。校務支援システムに対応した評価方法へ変更するか、本校の評価方法を実現できる独自システムを使用するか検討中である。また、校内研修において、新しい生徒指導要録の様式や、記入の仕方を全職員に共有した。</li> </ul>
生徒指導	①基本的な生活習慣の確立	欠席・遅刻を減少させる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各月に集計結果を提示して、全職員で欠席3.0・遅刻1.0(在籍生徒一人当たりの数値)未達の数値目標の維持、向上を図る。(R3 12月末現在:欠3.34/遅0.8)特定の生徒が欠席や遅刻を繰り返す状況を改善出来ていない。コロナウイルス感染症の予防による欠席や遅刻、早退もあり、達成度合いを正確に検証するのが難しい現状である。</li> </ul>
		皆勤者の増加を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆勤率の向上を目指し、数値目標は全学年とも皆勤者50%以上とした。12月末現在44%となっており、達成はできなかった。ただし、コロナウイルス感染症の予防による欠席もあり、達成度合いを検証するのが難しい現状である。</li> </ul>
	②ルールの遵守、マナー向上	ルール・マナーを遵守し、TPOに応じた行動ができるよう促す。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初は特に1年生において、校外での「公共」を意識した行動にマナーへの配慮が足りず、駅や電車・バス、商業施設の利用に関して地域の方々からご指摘を受けることもあった。粘り強く学年を中心に指導を継続した結果、校内外におけるマナーの向上が見られている。</li> <li>・TPOに応じた丁寧な言葉遣いや挨拶は3年生を中心に校内に浸透してきた。常に面接試験に臨める身だしなみを目指したものの、一部の生徒に制服の着崩しや頭髪の不備が見られる。</li> </ul>
③学校行事、部活動の活性化と充実	生徒が充実感・達成感を得られる工夫をする。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事、HR活動等、生徒自身が主体的に企画・運営できる体制づくりが構築されてきた。生徒会活動のみならず、生徒議会での議論も活発になされ、生徒主体での取り組みや校内環境の改善への機運が高まっている。</li> </ul>	

	部活動への参加率向上を目指し、やめさせない工夫をする。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主的で充実した活動と顧問の毎日の指導を通じて、自己肯定感を育み、自主練習に励む生徒も増えてきた。</li> <li>・卓球部（個人戦）での県大会出場や野球部の14年ぶりの夏の大会1勝、テニス部も地区予選で団体戦1勝をするなど、活動の成果も上がってきた。</li> </ul>
④いじめのない安心安全な学校生活	スクールカウンセラーと連携し、いじめ事例に組織的に対応する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学直後の1年生にいじめ行為が発覚した。入学前にSNSを通じて人間関係が構築されている現状があり、そこで起きるトラブルへの対処は次年度への課題である。SNSを通じて安易に校内外で人との繋がりを構築するため、ネットを通じたトラブルが頻発した。今後いじめ問題に関して全職員が高い意識を持つ。</li> <li>・SNSの利用において、ルールやマナーの遵守について未然防止に努めた。生徒は徐々に不特定で顔の見えない相手であることを認識し始め、個人の自分勝手な書き込みや勘違いから生じる危険性への想像力を育成することができた。</li> </ul>
	真面目な生徒が損をしない環境を作る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己都合を優先した周囲への迷惑行為に対しては、厳しく対応した。その場面に限らず、問題行動の背景をとらえ自分を見つめる機会を作った。学校生活を前向きに捉え、進級・卒業・社会貢献を目指していく中で、人間性の伸長に繋げ、転退学者を減少させることが次年度への課題である。</li> </ul>

担当	重点目標	具体的方策	評価	反省及び次年度の課題
進路指導	①進学指導・就職指導を充実させる。	進学・就職両面において、生徒の基礎学力の向上の工夫と教員間の情報の共有化をしっかりと図り、適切な指導ができるようにする。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学指導として、合格を目指して対策学習に取り組みさせた。また、補習と模擬試験を連携させ、学力の向上を図った。15名が希望校へ合格となったが、1名が不合格で進路未決定となり、引き続き家庭と連携を取って対応していく。</li> <li>・就職指導として、教員間で事業所に関する情報の共有を図り、生徒の受験先の決定と合格への対策指導を行った。昨年のコロナからの影響も採用に関しては回復傾向となり、1次内定率は87.5%となった。</li> <li>・進学、就職ともに、持病などを含む多様な生徒の進路指導の対応が今後の課題となる。</li> </ul>
	②低学年から進路意識を持たせる。	進路行事を積極的に活用する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症拡大に気をつけながら、インターンシップ、大学や企業の説明会などを通じて、低学年から進路意識を持たせるようにした。インターンシップについては、参加した生徒（1年21名、2年11名）はそれぞれの事業所（10箇所）で概ね良い評価をいただいた。来年度は冬季インターンシップ（来年度より名称を「事業所訪問」とする）を全て教職員で行うため、そのための準備が課題である。</li> </ul>
保健厚生	①ボランティア活動の継続と充実	地域とあゆむボランティアの活動を充実させる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域とあゆむボランティアについて、学校周辺の清掃活動を継続するとともに、大地の丘への訪問を実施した。コロナウイルスの影響で避難訓練の奉仕活動と内海海水浴場の清掃は実施できなかったが、地域に対して内海高校の良さをひきつづき発信していきたい。</li> <li>・高校生ボランティアアワードに参加した。今年度もオンラインでの開催であった。ボランティアアワードに関連してNHKの公開収録にも参加した。来年度は名古屋市で地区大会が行われる予定なので継続して参加していきたい。</li> </ul>
	②生徒委員会活動の充実	美化委員会の活動で生活環境に対する意識の向上を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美化委員会による清掃道具の点検は1回しか実施できなかったが、特に大掃除では充実した清掃活動を行えた。</li> <li>・校門の花壇に季節の花を植えたり、除草・水やりの当番を決めて整備を行うことで、気持ちの良い学校環境をつくることができた。</li> </ul>
		保健委員会の活動で自らの身体や、健康情報に関心をもたせるように工夫する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健委員を通じて、本校の生徒が苦手とするストレスの対処について考える機会を設ける。</li> <li>・感染防止、熱中症予防における対策を生徒が自発的に行えるような意識作りをする。</li> </ul>

担当	重点目標	具体的方策	評価	反省及び次年度の課題
保健 厚生	③相談活動の充実	スクールカウンセラーと連携し、相談活動を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プライバシーに配慮して、丁寧に相談活動を実施できた。</li> <li>・学年を中心に情報を共有し、生徒の学校生活を支援することに努めた。</li> <li>・支援・配慮の必要な生徒に適切な支援・配慮ができるように、スクールカウンセラーとも情報を共有することができた。</li> </ul>
1 年	①規範意識の高揚、基本的生活習慣の確立	自分を見つめ自分を理解して自己の見直しを図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの生徒が話を聞く態度を養い、聞いたことを理解し行動につなげることが大切であると意識できるようになってきている。ただ、まだ一部の生徒が自分を見つめることができていなく、これからも根気強い声かけを必要としている。</li> </ul>
		ルール・マナーを守る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習環境を整えるために、授業規律の理解と徹底を図ることはできている。</li> <li>・集団を意識できるような声かけを生徒に行うことで、ルールとマナーの周知徹底を図ることができてきている。</li> <li>・多くのルール、マナーを守れる生徒が増える中で、教員が見ていないところでの行動や人によって態度を変える様子があるので、そこを今後の課題としていく。</li> </ul>
	②学習習慣の充実	提出物・課題の提出期限を守る。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の提出期限を守り、課題の未提出者ゼロを週末課題を通して実現できるようになってきている。今後も継続していく。</li> </ul>
		基本的学習習慣を確立する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校設定科目「基礎数学」、総合的な探究の時間「黒潮」を通じてSDGsに関連させながら社会に必要な基礎学力をつけるとともに、学び方やものの考え方を身につけることができた。</li> <li>・少人数授業の展開によるきめ細かい指導を行い、各定期考査では成績不振者は居残り学習の場を与えるなど欠点者を減らす工夫をした。</li> </ul>
2 年	①進路実現を意識した行動	自己理解を深め、自分が社会で貢献できる分野を見つける。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事後の総合的な探究の時間やLT等で、自己の振り返りをさせることで、自己理解を深めさせることができた。自分を生かせる進路先を見つけさせることが、今後の課題である。</li> </ul>
		学年皆勤の生徒を増やす。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の学年皆勤の人数が21/42人で50%、今年度12月終了時点で20/40人の50%と昨年度と同水準である。来年度学年皆勤の人数を向上させるために、体調管理の徹底等、自己管理の意識を高めさせることが課題である。</li> </ul>

担当	重点目標	具体的方策	評価	反省及び次年度の課題
2 年	②コミュニケーション能力の育成	TPOに応じた言葉遣いと積極的な挨拶や返事を身に付けさせる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次に比べると、相手より先に挨拶ができる生徒が増え、年度の後半では相手の気持ちを明るくする挨拶を心掛ける生徒も増えていった。</li> <li>・冬季インターシップ等で教員以外の大人とコミュニケーションをとる場面が増え、様々な状況を経験するよい機会となった。今後も多くの場面を経験させ、コミュニケーション能力の向上を図っていく。</li> </ul>
		伝える力の向上を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に伝わるように説明することの難しさに直面している様子が多く見られた。少しずつではあるが、言葉選びを改善することによって相手の理解を得ることを経験していた。今後もコミュニケーションの場面を多く作り、伝え方の工夫をさせていく。</li> </ul>
3 年	①進路の実現	基礎基本を大切にし、基礎学力の向上を図る。	B	「各々の進路先で活躍するために」という目標で基礎学力の充実を図ってきた。授業を大切にする姿勢は身についたが、授業以外のところでの学習への取り組み方に課題が残った。
		進路意識を高めさせ、進路指導を充実させる。	A	面談や日々のコミュニケーション、居残り学習を通し、個々に応じた指導をきめ細かく行ってきた。生徒は自らの進路について真剣に考え行動し、進路選択ができた。
	②信頼される社会人として必要な能力や習慣の育成	皆勤率の向上を図る。	B	コロナ禍において、欠席遅刻を減らす指導をすることに難しさを感じた。そのなかで、日頃の体調管理やコロナウイルスの感染対策を十分行うよう呼び掛けてきた。生徒が自らの進路について真剣に考えるうち、自然と欠席数、遅刻数が減った。
身だしなみルールの徹底を図る。		B	進路決定後一部の生徒で緩みが出てくる場面も見られたが、その度に身だしなみを整えることの重要性を訴えた。自ら身だしなみを確認する習慣についても呼びかけてきたが徹底するには至らずとなってしまった。	
コミュニケーション能力の育成を図る。		A	気持ちの良い挨拶や場に応じた言動ができるようになった。相手の立場を考えて行動できる生徒も増えた。また学校行事を通して、仲の良いグループの友人以外とも積極的に会話する場面がみられるようになった。	